

地域とともにすすめる福祉活動

穴栗市のだれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり

穴栗市社会福祉協議会では、三月二十七日の第六回評議員会において、平成十九年度事業計画ならびに予算を可決しました。十九年度事業のうち、新規事業を紹介します。



福祉有償運送事業は、市の外出（通院）支援事業とあわせて高齢者や重度障がい者の外出をサポートする事業です

平成十九年度は、「穴栗市のだれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を福祉目標に掲げた本会地域福祉推進計画の第一年次となります。

市民だれもが自分らしく地域で暮らしていけるよう、地域の福祉力を高め、地域福祉の総合的な推進をはかります。

平成十九年度の新規事業

①自治会別懇談会の開催（三年計画で実施）

社協役員や職員が直接地域に出向き、地域の実情や地域住民の社会福祉についての意見を把握するため、自治会別懇談会を三年計画で開催します。

②福祉有償運送事業の市内全域での実施

外出を支援するサービスは

社協合併前から高齢者や重度障がい者にとっても重要な生活の足となっています。国交省への許可申請により、適正な「福祉有償運送事業」として、市内全域において、安心、安全なサービス提供をめざします。

③穴栗市出会いサポート事業の実施

少子化の大きな要因の一つといわれる「晩婚」や「未婚」に対する取り組みとして、社会全体で若者の結婚を応援し、男女の新たな出会いを支援する新しい事業を、市の委託により実施します。このため担当者を配置します。

④アクティブシニア応援助成事業の推進

大阪ガス福祉財団から二百九十万円の助成を受け、本年度取り組み事業です。

「団塊の世代」といわれるシニア世代のための、地域活動入門講座の開催やシニア世代の多様な地域活動への支援を行います。

⑤生活改善のよびかけと善意銀行預託推進

生活改善の観点から、「葬儀・法要・お見舞い」などの「あり方を見直す」ことなどについて、市連合自治会、市連合婦人会、JA女性会、民生・児童委員協議会、市内の葬祭会館などへ本会から申し入れを行うことを計画しています。そして、これらの経費を節約し、できるだけ多くの市民の皆さんの福祉（地域福祉）充実へつながる財源を捻出するために善意銀行への預託を呼びかけて行きたいと考えています。